

映画をみて、防災おしゃべりしませんか！

(兵庫県西播磨学園都市にて実施したカフェ)
開催詳細：P43 参照

映画や映像は、実際に災害が起きたら私達の家や街、家族はどのようになってしまうのか？を考えるととてもいいきっかけになります。阪神・淡路大震災の様子とその被害を乗り越えていく人と人とのつながりを克明に描いた映画「ありがとう」を見て、いつ起きるかわからない災害について「日頃の備え」や「災害が起きる前にできること」についてみんなで一緒に考えて、話をしました。



【開催概要】

映画「ありがとう」上映会

まずは、みんなで映画を見ました。約2時間の映画ですが、前半の震災時の火事や建物が倒壊していく様子はとてもリアルです。そして、カメラ屋の主人公が震災で家財や大切な仲間を失いながらも、街の復興に尽力し、あきらめかけたプロゴルファーへの夢に向かっていく姿はとても感動的でした。

映画「ありがとう」ポスター



感想を語る会

次に、映画を見た参加者みんなで輪になって座り、映画を見て「何を感じたか？」「どんなことをしておいたほうがいいのか？」など色々なことを話し合いました。この時は、ラジオのパーソナリティにインタビュー役をお願いし、映画の主人公のモデルとなった方、防災の専門家にも参加して頂きました。

映画をみた直後だからこそ、災害時のイメージをもって、災害にどう備え、対応したらいいのかを話し合うことができました。



映画のモデルとなった古市さんに質問する高校生



専門家との対話

【こんな感想ができました！】

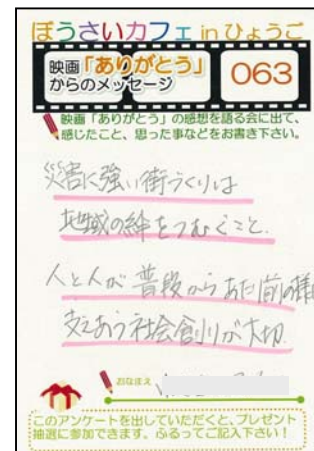
- ・ 災害に強い街づくりは地域の絆をつむぐこと。人と人とが普段からあたり前の様に支えあう社会創りが大切。
- ・ 地震体験をして13年も経つと、その時のことが遠くなりましたが、またいつ起こるかわからない天災を考える機会になりました。
- ・ 普段は年齢の違う人と話し合う機会が少ないので、このようなことに参加できて良かったです。
- ・ 私が覚えていない震災のことを、本当にリアルに教えてくれた映画でした。
- ・ 震災のことを話や映像で見るより、映画を見て、心が入って見れたと思いました。

【レイアウト】



スクリーンをバックに、インタビュアー、映画のモデルとなった古市さん、専門家を囲み、気やかな雰囲気になりました。

【カード】



インタビューのきっかけとして「メッセージカード」を作成しました。みなさん、心のもったメッセージを書いてくれました。

【開催のポイント】

災害に関する映画を見ることで、災害時のイメージを簡単に共有することができます。そして、「こんな風になったらどうしよう？」と感じる人が多いと思います。それが、防災について話し合うとても大切な“きっかけ”になります。また、この“きっかけ”さえあれば、防災の専門家がいなくても「日頃の備え」について気軽に話しあうことができます。

【やってみませんか？】

映画を見て感想を話し合うことは、映画館でなくても、大人数でなくても、映画さえ見られる場所があればどこでもできます。例えば、公民館や学校の教室、体育館でもいいですし、家庭で見て家族会議ということもいいかもしれません。

また、防災について話し合う“きっかけ”になりそうな教材は、映画「ありがとう」以外にもいろいろあります。たとえば映画「日本沈没」、紙芝居「いなむらの火」「シロのないた海」、その他、過去の災害記録などです。

これらを“きっかけ”にして、あなたの身近なところで気軽に「映画」+「防災おしゃべり」を始めてみませんか？